

下関条約（春帆楼写真）



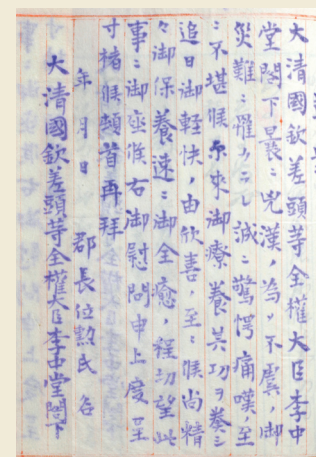
* 図書726-58-192「下関名勝絵はがき 日清講和談判春帆楼」

解説

日清戦争の諸戦で勝利した日本は、1895（明治28）年3月20日から下関で講和会議を開きました。左の絵ハガキには会場となった春帆楼が写っています。清国は李鴻章、日本側は伊藤博文および陸奥宗光が全権として会議に臨みました。

3月24日、第3回会談の終了後、宿舎に帰る途中の李鴻章が狙撃される事件が起こりました。政府は事件に驚き、国内の強硬論を抑えて休戦条約を結びました。県内では李鴻章に対する見舞運動が県当局によって組織されました。下の写真は、郡長に李鴻章への見舞を出すよう求めた際の草案です。幸い李鴻章は命に別条なく、4月10日からの交渉に出席し、4月17日に講和が成立しました。

この下関条約で清国は（1）朝鮮の独立を認め、（2）遼東半島、台湾、澎湖諸島を日本に譲渡し、（3）賠償金として2億テールを支払うこと、が決められました。



* 行政文書 戦前A総務398「清国講和使一件」

* 日清戦争の宣戦・講和に関し、明治天皇の肖像画付で印刷された「宣戦詔勅」（明治27年8月1日付）、「平和詔勅」（明治28年5月10日付）、「賜軍人詔勅」（明治28年5月13日付）が残っています。（山田家文書（徳山市）411）